

令和5年度  
地域提案型交通安全支援事業運営支援業務  
事業報告書

令和6年3月

内閣府政策統括官（政策調整担当）

# 目 次

## I. 令和5年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

1. 事業の目的	1
2. 事業の概要	1
3. 実施地区概要	2

## II. 実施地区の報告

1. 岐阜県 各務原市	3
2. 長崎県 大村市	15

資料	31
1. 事前打合せ資料	32
2. 実施マニュアル (例)	39
3. アンケート調査票	
(岐阜県 各務原市)	50
(長崎県 大村市)	53

## I. 令和5年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

### 1. 事業の目的

本事業は、内閣府が地方公共団体の提案を受け、当該地域の実情を踏まえた上で、当該地域において必要な交通安全に資する事業を実施することにより、地域における自主的な交通安全活動を推進することを目的とする。

### 2. 事業の概要

都道府県、市町村、所轄警察署、教育委員会、小・中・高等学校、PTA、高齢者団体及び交通関係団体等との連携・協力の下、実施地区ごとに交通ボランティア団体等を中心とする実行委員会を設置する。

実行委員会は、参加者の理解・共感を促し、地域の交通実態に合った参加・体験・実践型のプログラムを決定し、これを実施する。

プログラムの実施後には、実施結果等を踏まえて、今後の当該地域における交通安全活動がより効果的・効率的なものとなるよう、実行委員会としての意見を取りまとめる。

#### (1) プログラム実施期間

令和5年10月から11月までの間に実施

#### (2) 実施地区等

①岐阜県各務原市、長崎県大村市の2地区において実施

②実施地区は、都道府県または政令指定都市からの提案内容に基づき、地域ごとの交通事故発生状況、交通安全教育事情等を考慮して選定

#### (3) 参加者

①岐阜県各務原市 : 会場の高等学校の生徒

②長崎県大村市 : 地域住民

#### (4) 実施方法

①実施地区ごとに実行委員会を設置し、各地区の実情に即したプログラム内容や参加方法等を検討し、プログラム当日の運営等を行った。

②プログラム実施後は、参加者及び実行委員を対象としたアンケート調査をそれぞれ実施するとともに、本事業を実施した結果を踏まえ、地域における交通安全活動の実施方法・内容等が今後より効果的かつ効率的なものとなるよう意見を取

りまとめた。

③事業実施に際しては、都道府県、実施市町村及び地域において日常的に交通安全活動を行っている交通ボランティア団体を始めとした関係団体や・機関（所轄警察署、教育委員会、小・中・高等学校、P T A、高齢者団体及び交通関係団体等）との連携を図り、協力を得て実施した。

### 3. 実施地区概要

#### (1) 実施地区・期日・会場等一覧

No.	開催県	実施市町村	実施期日	実施会場
1	岐阜県	各務原市	10月27日(金)	岐阜各務野高等学校
2	長崎県	大村市	11月18日(土)	ボートレース大村

#### (2) 実施地区の参加者数一覧

No.	開催県	実施市町村	参加者総数	内 訳
1	岐阜県	各務原市	205名	岐阜各務野高等学校生徒
2	長崎県	大村市	1,173名	地域住民等

## II. 実施地区の報告

### 岐阜県 各務原市

#### ●事業の概要

##### 1. 事業名

各務原スケアードストレイト交通安全教室

##### 2. 主催

内閣府、岐阜県、各務原市

各務原スケアードストレイト交通安全教室実行委員会

##### 3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

##### 4. 実施会場

岐阜各務野高等学校

##### 5. 実施日時

令和5年10月27日(金) 午後2時30分～午後3時20分

##### 6. 参加者

岐阜各務野高等学校 1年生 205名

##### 7. プログラム内容

- ・開会挨拶(学校長、各務原警察署)
- ・スケアードストレイト交通安全教室
- ・生徒代表お礼の言葉
- ・閉会

##### 8. 実施体制

本事業は、岐阜各務野高等学校の自転車事故の防止及び交通安全意識の向上を図るため、岐阜県と各務原市が中心となり関係機関と連携・調整の上、プログラムの企画・運営にあたった。

##### 9. 交通安全ポスターコンクールの実施

スケアードストレイト交通安全教室終了後、生徒の交通安全意識の高揚を図るため、「交通安全に関するもの」をテーマとした交通安全ポスターコンクールを実施し

た。

■主催 各務原スケアードストレイト交通安全教室実行委員会

■応募総数 80点（岐阜各務野高校情報科生徒1年生80名）

■選考 第2回実行委員会（令和6年1月25日（木）開催）において審査を行い、最優秀作1点 優秀作2点 佳作5点を決定した。

■表彰：令和6年2月21日（水）（岐阜各務野高等学校校長室）

※受賞作品の一部については、岐阜県交通安全対策協議会が主催する「交通安全運動」「シートベルト着用等と呼び掛ける交通安全月間」のリーフレット・ポスターに活用する。

## 10. 実行委員会等開催経過

### ①事前打合せ

期日：令和5年9月26日（火）

会場：岐阜各務野高等学校

協議事項：事業趣旨説明

実行委員会の設置について

スケアードストレイト実演内容の説明

交通安全ポスターコンクールの実施について

### ②第1回実行委員会

期日：令和5年10月11日（水）

会場：各務原市産業文化センター

協議事項：事業について

当日のプログラムについて

今後の準備等スケジュールについて

当日の開催判断（実施場所の決定）方法の確認 等

### ③第2回実行委員会（事後）

期日：令和6年1月25日（木）

会場：各務原市役所

協議事項：交通安全ポスターコンクール審査会

スケアードストレイト交通安全教室実施報告

生徒へのアンケート集計結果報告

反省と今後の課題について（意見交換）

実行委員へのアンケート調査

## 11. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

### ①実施についての感想

・生徒アンケート結果から、「今回の教室についてどう感じたか」という設問については「とても良かった」「良かった」が約97.4%を占め、その理由については、「交通事故は危険と知っていたが、いざ再現を目の当たりにしたら危険がたくさんあることが理解できた」、「交通事故の被害の大きさと、自転車用ヘルメット着用の大切さを学んだ」、「普段から自転車にどう乗れば良いのか改めて勉強した」など、体験を通じて交通事故の怖さ、命の大切さに気付いてもらえたと考ええる。

・若干ではあるが、「普通」と回答した生徒の理由を見ると、「交通事故が危険なことは理解できたが刺激が強く、少し怖さを感じた」との感想もあり、交通事故の恐怖を強く感じ過ぎてしまったのではと推測され、伝えることの難しさが感じられた。

### ②成果と課題・今後の取り組み

#### （成果）

・アンケート結果から、参加者の約8割が今回の交通安全教室の内容・ねらいを理解できており、今後の交通安全への意識付けにもなり、十分な効果があったと思われる。

・スケアードストレイトは、生徒に対するインパクトがあり、交通安全意識の向上のために有効な手段ではあるが、若干刺激が強すぎると感じてしまう生徒もいるので、トラウマにならないような配慮も必要である。

#### （課題・今後の取り組み）

・体験して感じたことを周囲で共有し、地域ぐるみで意識を高めることが重要である。

・一度のみの体験ではなく、繰り返し交通安全を訴えることが求められる。

## 12. 実施の様



( 校長先生の挨拶 )



( 警察署からの挨拶 )



( スケアードストレイト )



( スケアードストレイト )



( スケアードストレイト )



( 生徒からのお礼の言葉 )



13. ポスターコンクール入選作品



最優秀作



優秀作①



優秀作②



佳作①



佳作②



佳作③



佳作④



佳作⑤

## 14. 参加者等アンケート集計結果の概要

### 1. 岐阜各務野高校1年生（回答者数：190名）

#### （1）交通安全について普段誰かと話すことがあるか（複数回答）

交通安全について誰かと話すかについて、「家族」が49.5%（94名）、「友だち」が25.3%（48名）であった一方、「だれとも話さない」とする回答が41.6%（79名）であった。（表1）

表1 交通安全について誰かと話すか（問1：複数回答）

先生	7名	3.7%
家族	94名	49.5%
友だち	48名	25.3%
だれとも話さない	79名	41.6%

#### （2）スケアードストレイト交通安全教室に参加して

今回の行事に参加して、参加者の80.0%（152名）が「とても良かった」、次いで17.4%（33名）が「良かった」と回答し、両者で97.4%（185名）を占めた。（表2）

表2 今日の行事に参加して（問2）

とても良かった	152名	80.0%
良かった	33名	17.4%
普通	5名	2.6%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%

#### 【理由】

##### とても良かった／良かった

- ・事故は危険と知っていたが、いざ目の前にしたら危険がたくさんあることがわかった
- ・事故の再現度が高く怖さを知れた
- ・自転車通学なのでマナーなどについて理解できた
- ・実際どんな交通事故が起きているのかとてもわかりやすかった
- ・自転車に乗る時は気を付けようと思った
- ・言葉で聞くよりもリアリティが増し、何に気を付けるべきなのかが理解できた
- ・どんなシチュエーションでどんな事故が起きるかがわかりやすかった
- ・実際に起こってしまった事故について知れたし、交通安全について改めて考えようと思った
- ・車とぶつかった時、自転車同士でぶつかった時の違いなどがわかりやすかった
- ・事故の動画は見たことがあるが、少しの速度でも危険であることを知った
- ・交通ルール、マナーを守らないと事故が起きることを再度理解した
- ・スタントマンの実演は臨場感があってよかった

- ・凄いだきドキした、実際の衝突音を聞いて交通事故が危険なことを再確認した
- ・自分にも起こるかもしれない事故の事例があって気を付けようという気持ちになった
- ・被害の大きさとヘルメット着用の重要さを教えていただいた
- ・事故が起きないようにする良い例も実施してくれて勉強になった
- ・事故を見たことがないので、どんな感じかこの目で知ることができた
- ・自転車は便利な乗り物だが乗り方を間違えると危険であると認識した
- ・自転車でも相手を怪我させてしまうことがわかった
- ・時速 40 キロは意外に早く、衝突時の様子がわかりやすかった
- ・交通事故を知らない私に、怖さとルールを守ることの大切さを教えていただいた
- ・普段から自転車にどう乗ればよいのかを学ぶことができた
- ・想像以上の全力の再現だったので、見ごたえ、聞きごたえもあり勉強になった

### (3) 参加して感じたこと (複数回答)

行事に参加しての今の気持ちについて、特に「交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった」、「道路でまわりの車や人に注意して行動しようという気持ちが強くなった」との回答がともに 8 割以上を占めた。(表 3)。

表 3 行事に参加して感じたこと (問 3 : 複数回答)

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	160 名	84.2%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	160 名	84.2%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	62 名	32.6%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	47 名	24.7%
特に変わりはない	4 名	2.1%

#### 【その他感じたこと】

- ・自転車に乗れないので被害者の視点は考えてなかった
- ・色々な目線から実施してくれたので生涯気を付けようと思った
- ・自転車をしっかりと整備しようと思った
- ・ヘルメットは必ず着用します
- ・ヘルメットをしっかりと被らないと危ないことを知った
- ・僕たちにこのような機会を与えてくれてありがとうございました
- ・ルールを守って生活したい
- ・自分がルールを守る、そんなシンプルなことで事故を防げると感じた
- ・時間に余裕をもって、周囲を確認しながら自転車に乗っていきたい

### (4) 行事への参加について

これからも、今日のような行事に参加したいか、について、参加者の 64.7% (123 名) が「参加したい」と回答した一方、「どちらともいえない」とする回答が 32.1%

(61名)であった。(表4)

表4 今後の参加について(問4)

参加したい		参加したくない		どちらともいえない	
123名	64.7%	6名	3.2%	61名	32.1%

【理由】

参加したい

- ・多くの人に交通事故の怖さを知ってほしい
- ・実例を見ながら学ぶとわかりやすい
- ・知識として学べ、対策の仕方もわかり、普段の生活でも役立つため
- ・自分の知らないことを知ることができる
- ・もっと交通安全や事故について知っていききたい
- ・普段気にしていなかったこと、忘れていたりした怖さに気づけた
- ・交通安全について考え直すことができる
- ・教室を通して様々なことを考えていききたい
- ・どのように事故が起きるか知ることができる
- ・何度も見て、その都度学び直したい
- ・交通事故の怖さや、大切なことをいつまでも覚えておきたい
- ・自分自身の良い経験として参加したい
- ・自分もいつ交通事故に遭うかわからないから
- ・自転車に良く乗るので危険なことについてもっと知りたい
- ・違った場面ではどのような事故につながるか知りたいから
- ・自分が自転車をどれだけ安全に使用しているかを確認できるため
- ・自転車は危険だという意識が強くなるから
- ・通学時や下校時に起きやすい交通事故について知りたいと思った
- ・今までの自分の行動を振り返ることができるから
- ・定期的に交通安全について考えることは必要
- ・三年間を安全に過ごすための知識が得られる
- ・他人ごとにするべきではないと思う

参加したくない/どちらともいえない

- ・今回で十分理解できた
- ・学校でやるなら良いが、外では時間がかかるので
- ・刺激が強い、怖かった
- ・改めて危険なことを知れたが見ているのが残酷だから
- ・学校行事ならばよいが、プライベートの時間が削られるならば控えたい
- ・危ないことは理解したが、トラウマになってしまう
- ・外だと日焼けするから

- ・参加する価値はあるが、自分からは参加しないかなあ？怖い！
- ・自分は常に気を付けている

## 2. 実行委員（回答者数：11名）

### （1）実行委員の属性

実行委員の所属は、行政が54.6%（6名）、警察が18.1%（2名）、高等学校、教育委員会、交通安全協会がそれぞれ9.1%（1名）であった。（表5）

表5 実行委員の所属・種別（問1）

	実行委員	
行政	6名	
	54.6%	
警察	2名	
	18.1%	
高等学校	1名	
	9.1%	
教育委員会	1名	
	9.1%	
交通安全協会	1名	
	9.1%	
総数	11名	
	100%	

### （2）事業全体の評価について

自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の63.6%（7名）が「大変良かった」、36.4%（4名）が「良かった」と回答した。（表6）

表6 今日の行事は（問2）

大変良かった	7名	63.6%
良かった	4名	36.4%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

#### その理由

- ・管内の他の学校でも実施していただきたいと感じた
- ・生で交通事故の恐ろしさを体験できることは非常に良かった
- ・高校生のためになるものだった
- ・高校生に対し、交通事故の危険性を認識してもらうことができた
- ・関係機関が連携して一つの成果を残せ、生徒に身になる事業であった

### (3) 本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の 81.8%（9 名）が「交通ルール・マナーの大切さを理解し、自らの命を守ろうという気持ちが高まる」、54.6%（6 名）が「自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗ろうという気持ちが高まる」、次いで 45.6%（5 名）が「自転車乗用時のヘルメット着用や自転車の事前点検の大切さを理解する」と回答した。

（表 7）

表 7 達成できたと思うこと（問 3：複数回答）

交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守る	9 名	81.8%
自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗る	6 名	54.6%
交通社会の一員として他者に対する思いやり、ゆずり合いの気持ち	1 名	0.9%
自転車に関する交通ルールや安全確認の仕方の理解	4 名	36.7%
自転車乗用時のヘルメット着用や自転車の事前点検の大切さ	5 名	45.6%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さ	3 名	23.8%
その他	0 名	0.9%

### (4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

①本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の 100%（11 名）が「大変役立った」、「役立った」と回答した。（表 8）

表 8 知識や技術向上の機会となったか（問 4-1）

大変役立った	7 名	63.6%
役立った	4 名	36.4%
ふつう	0 名	0%
役立たなかった	0 名	0%
全然役立たなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

②本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについて実行委員の

36.4%（4名）が「交通安全に関する知識の習得」、27.3%（3名）が「交通安全教育を行う際の指導方法」、「交通安全教室実施のための企画立案」と回答した。

（表9）

表9 有益だったと思うこと（問4-2）

交通安全に関する知識の習得について	4名	36.4%
交通安全教育を行う際の指導方法について	3名	27.3%
交通安全教室実施のための企画立案について	3名	27.3%
交通安全教室の運営について	1名	9.1%
参加者・実行委員の交通安全意識の向上について	0名	0%
行政や警察、他団体との連携について	0名	0%
その他	0名	0%

③本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、81.8%（9名）が「活用していきたい」と回答した。（表10）

表10 今後の活用予定について（問4-3）

活用していきたい	9名	81.8%
一部活用していきたい	1名	9.1%
どちらともいえない	1名	9.1%
活用することは難しい	0名	0%
無回答	0名	0%

④本事業への参加を契機として、今後同様（又は類似）の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の81.8%（9名）が「実施したいし、可能だと思う」、と回答した。（表11）

表11 継続実施に向けての意欲と可否（問4-4）

実施したいし、可能だと思う	9名	81.8%
実施したいが、困難だと思う	0名	0%
実施したいと思わない	1名	9.1%
どちらともいえない	1名	9.1%
無回答	0名	0%

**（5）本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。（自由記述）**

- ・参加体験型のイベント
- ・多くの交通イベントがあると良い

- ・ 日常的な交通安全啓発活動
- ・ 様々な機会を捉えた繰り返しの啓発活動
- ・ 動画等、映像を使った啓発活動

**(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。(自由記述)**

- ・ 交通安全意識を向上させたいと感じた
- ・ 交通事故の衝撃の強さを改めて理解した

**(7) 本事業に対する意見や提言について。(自由記述)**

- ・ とても有意義な事業であった
- ・ 貴重な機会を与えていただき感謝
- ・ 生徒にとって交通安全について考えるまたとない機会となった



## 長崎県 大村市

### ●事業の概要

#### 1. 事業名

見て！触れて！学ぼう！  
交通安全フェスティバル in おおむら

#### 2. 主催

内閣府、長崎県、大村市  
交通安全フェスティバル in おおむら実行委員会

#### 3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

#### 4. 実施会場

ボートレース大村（イベントホール及び周辺駐車場）

#### 5. 実施日時

令和5年11月18日（土） 午前10時00分～午後3時00分

#### 6. 参加者

大村市民等 1,173名

#### 7. プログラム内容

- ・開会（主催者挨拶等）
- ・長崎県警察音楽隊
- ・お笑いトークショー（長崎亭キヨちゃんぼん）
- ・幼児・児童交通安全教室
- ・スケードストレイト
- ・子ども安全免許証交付
- ・電動アシスト自転車試乗体験
- ・シートベルトコンビンサー
- ・セーフティキャッチ号
- ・サポカー試乗体験
- ・パトカー、白バイ、消防車両展示
- ・閉会

## 8. 実施体制

本事業は、地域の交通事故発生状況、交通課題等を考慮した内容とするため、長崎県、大村市のほか、大村市において交通安全教育や交通安全活動等に携わっている関係団体等が中心となってプログラムの企画・運営にあたった。

## 9. 実行委員会等開催経過

### ①事前打合せ

期日：令和5年9月6日（水）

会場：大村市役所

協議事項：趣旨説明

実施日の検討及び実施会場の確認

実施プログラム（案）の検討

参加予定者の検討

実行委員会設置に関する検討

実施準備に関する確認

実施会場の下見

### ②第1回実行委員会

期日：令和5年10月4日（水）

会場：大村市コミュニティセンター

協議事項：実施日、実施会場の決定

イベント名称の検討

実施概要の確認

実施プログラムの検討

参加予定者の検討

配布啓発品の検討

役割分担の検討

参加者アンケート調査票の検討

### ③第2回実行委員会

期日：令和5年11月1日（水）

会場：大村市役所

協議事項：タイムスケジュール（前日準備）、イベント内容、  
会場配置の決定

スタッフの業務内容の決定  
各ブースの協力スタッフの決定  
啓発品、備品等の確認

④第3回実行委員会（事後）

期日：令和6年1月26日（金）

会場：大村市役所

協議事項：参加者アンケート集計結果

反省と今後の課題について（意見交換）

実行委員へのアンケート調査

**10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）**

①実施についての感想

- ・ 様々なブースを設置したことにより、参加者が楽しみながら参加していた
- ・ 子どもから高齢者まで幅広い世代の方が参加することができた
- ・ 車両展示や体験型ブースを設けると、多くの来場者が来ると再認識した

②成果と課題・今後の取り組み

- ・ 交通事故撲滅のためには、何よりも関係機関・団体との連携が重要
- ・ 交通安全教室は一回のみの実施でなく、継続して行うことが大切
- ・ この規模のイベント実施には財源の確保が課題
- ・ 大きな規模のイベントの継続実施には、情勢に応じて内容を絞った上での実施の検討も必要
- ・ 更なる効果的なものとするためには、他地区で開催されるイベントや運営方法についての情報収集が大切

## 11. 実施の様様



( 開会式 )



( 長崎県警察音楽隊演奏 )



( スケアードストレイト )



( スケアードストレイト )



( 子ども安全免許証交付 )



( 幼児・児童交通安全教室 )



( セーフティキャッチ号 )



( セーフティキャッチ号 )



( シートベルトコンビンサー )



( サポカー試乗体験 )



( パトカー、白バイ、消防車両展示 )



( パトカー、白バイ、消防車両展示 )

## 12. 参加者等アンケート集計結果の概要

調査対象：参加者（子ども、高校生以上）、実行委員

### 1. 子ども（回答者数：152名）

#### （1）参加者の学年

参加者の学年は、「幼稚園・保育園」が41.5%（63名）、「小学生」が54.6%（83名）、「中学生」が1.3%（2名）であった。（表1）

表1 学年（問1）

幼稚園・保育園	63名	41.5%
小学 1年生	31名	20.4%
小学 2年生	11名	7.2%
小学 3年生	17名	11.2%
小学 4年生	9名	5.9%
小学 5年生	10名	6.6%
小学 6年生	5名	3.3%
中学 1年生	0名	0%
中学 2年生	2名	1.3%
中学 3年生	0名	0%
無回答	4名	2.6%

#### （2）今日の行事に参加して

今回の行事に参加して、参加者の72.4%（110名）が「とてもよかった」、次いで21.0%（32名）が「よかった」と回答し、両方で93.4%（142名）を占めた。（表2）

表2 今日の行事に参加して（問2）

とてもよかった	110名	72.4%
よかった	32名	21.0%
ふつう	9名	5.9%
よくなかった	1名	0.7%
ぜんぜんよくなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

#### 【理由】

とても良かった／良かった

- ・交通事故が恐ろしいことが理解できた
- ・交通安全について知らなかったことを学ぶことができた

- ・将来事故に遭わないように練習することができた
- ・子ども安全免許証（ゴールド）を貰えてとても嬉しかった
- ・白バイ、パトカー、消防車、音楽隊の演奏もとても良かった
- ・シートベルトコンビンサーは面白かったけれど凄い衝撃だった
- ・スケアードストレイトは凄かった
- ・キヨちゃんぽんが面白かった

### (3) 参加して感じたこと（複数回答）

行事に参加しての今の気持ちについて、特に「交通ルールや交通マナーを守ろう」という気持ちが強くなった」との回答が8割以上を占めた。（表3）

表3 行事に参加して感じたこと（問3：複数回答）

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	122名	80.3%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	85名	55.9%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	60名	39.5%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	39名	25.7%
特に変わりはない	4名	2.6%
無回答	1名	0.7%

#### 【その他感じたこと】

- ・しっかりと手をあげ、車に乗ったらしっかりとシートベルトを締めます
- ・交通ルールを守って命を落とさないようにします
- ・挨拶をしっかりとします
- ・とても寒かった

### (4) 行事への参加について

これからも、今日のような行事に参加したいか、について、参加者の96.1%（146名）が「参加したい」と回答した（表4）

表4 今後の参加について（問4）

参加したい		参加したくない		無回答	
146名	96.1%	4名	2.6%	2名	1.3%

## 2. 高校生以上（回答者数：193名）

### (1) 参加者の属性

#### ①属性

参加者の年齢別では30代が44.5%（86名）、次いで40代が28.0%（54名）

となっている。(表5)

表5 参加者の年齢別内訳 (問1-1)

10代	6名	3.1%
20代	18名	9.3%
30代	86名	44.5%
40代	54名	28.0%
50代	9名	4.7%
60代	9名	4.7%
70代	9名	4.7%
80代以上	1名	0.5%
無回答	1名	0.5%
総数	193名	100.0%

## ②運転免許保有の有無

保護者の運転免許保有の有無について、保有者が22.8% (44名)であったが、無回答が73.0% (141名)であった。(表6)

表6 運転免許保有の有無 (問1-2)

あり	44名	22.8%
なし	8名	4.2%
無回答	141名	73.0%
総数	193名	100.0%

## (2) 誰と参加していたか

今日の行事に誰と参加したかについて、「家族と参加」との回答が9割以上を占めた。(表7)

「子どもと一緒に」との回答が多数を占めたが、「孫と一緒に (三世代)」での参加との回答も多く見られた。なお、「その他」とあるのは「学童クラブ」からの参加であった。

表7 誰と参加したか (問2)

家族と参加	178名	92.2%
友人・知人と参加	7名	3.6%
その他	4名	2.1%
一人で参加	3名	1.6%
無回答	1名	0.5%
総数	193名	100.0%



### (3) 今日の行事に参加したきっかけ（複数回答）

今日の行事に参加したきっかけは、「おもしろそうだった」が42.5%（82名）、「交通安全に興味があった」が34.7%（67名）、との回答が多くを占めた。（表8）

なお、「その他」とあるのは「広報おおむらを見て」とするものであった。

表8 参加の動機（理由）（問3：複数回答）

交通安全に興味があった	67名	34.7%
学校やPTA・敬老会からの案内	34名	17.6%
知人に誘われた	9名	4.7%
家族に勧められた	21名	10.9%
おもしろそうだった	82名	42.5%
子ども（孫）が参加している	12名	6.2%
その他	1名	0.5%

### (4) 今日の行事に参加して

#### ①感想

今回の行事に参加して、参加者の60.1%（116名）が「大変良かった」、次いで35.8%（69名）が「良かった」と回答し、両者で95.9%（185名）を占めた。（表9）

表9 今日の行事に参加して（問4-1）

大変良かった	116名	60.1%
良かった	69名	35.8%
ふつう	6名	3.1%
良くなかった	1名	0.5%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	1名	0.5%

#### 【理由】

##### とても良かった／良かった

- ・パトカー、白バイ、消防車等、次世代の子どもたちが関心を持ってくれた
- ・子どもが興味をもって自ら進んで参加していた
- ・大人は車も運転するし、子どもは道路を歩く、家庭でも交通安全について話し合いたい
- ・スケアードストレイトを見逃して残念だった
- ・長崎亭キヨちゃんぽんがとても面白かった
- ・県警音楽隊の演奏がとても良かった
- ・子どもも大人も楽しめる内容でとても良かった
- ・SNS、チラシの両方で開催を知ったので、忘れずに参加できた
- ・暖かい時期で、日曜日であればもっとたくさんの人が参加できたのでは

②プログラムの評価

表 10 スケアードストレイト (問 4-2)

大変良かった	78名	40.4%
良かった	65名	33.7%
ふつう	15名	7.8%
良くなかった	1名	0.5%
全然よくなかった	0名	0%
無回答	34名	17.6%

表 11 ブースによる展示・体験 (問 4-2)

大変良かった	101名	52.3%
良かった	64名	33.2%
ふつう	12名	6.2%
良くなかった	2名	1.0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	14名	7.3%

表 12 特に興味を持ったブース (問 4-2 : 複数回答)

幼児・児童交通安全教室	56名	29.0%
シートベルトコンビンサー	34名	17.6%
電動アシスト自転車試乗体験	20名	10.4%
子ども安全免許証	107名	55.4%
セーフティキャッチ号	20名	10.4%
サポカー試乗体験	13名	6.7%
パトカー・白バイ・消防車両展示	131名	67.9%
その他	4名	2.1%
無回答	14名	7.3%

※「その他」とあるのは「長崎亭キヨちゃんぽん」とするものであった。

### (5) 参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で無回答を除くほぼ全員が「気持ちが高まった」と回答した（表 13）。

表 13 各項目についての今の気持ち（問 5）

	はい		いいえ		無回答	
	名	%	名	%	名	%
交通ルールや交通マナーを守らなければいけないという気持ちが高まったか	151	78.2%	0	0%	42	21.8%
道路状況や交通状況などに十分注意して行動しようという気持ちが高まったか	151	78.2%	0	0%	42	21.8%
家族で、交通安全について日常的に話し合ったり考えたりすることが大切という気持ちが高まったか	151	78.2%	0	0%	42	21.8%
友人や仲間と、交通安全について話し合おうという気持ちが高まったか	148	76.7%	3	1.6%	42	21.8%
地域の子どもたちや地域の皆さんを、交通事故から守ろうという気持ちが高まったか	150	77.7%	1	0.5%	42	21.8%
交通安全のために、あなた自らが地域で何か役割を果たそうという気持ちが高まったか	147	76.2%	4	2.1%	42	21.8%
これからも機会があれば交通安全（教室）に参加しようという気持ちが高まったか	151	78.2%	0	0%	42	21.8%

### (6) 開催日（曜日を含む）について

開催日について、無回答を除く参加者のほぼ全員が「良かった」と回答した。（表 14）

できれば休日の開催を希望との意見もあった。

表 14 開催日（曜日を含む）について（問 6-1）

良かった		良くなかった		無回答	
147 名	76.2%	3 名	1.6%	43 名	22.3%

### (7) 行事全体の時間の長さについて

行事全体の時間の長さについて、無回答を除く参加者のほぼ全員が「良かった」と回答した。（表 15）

表 15 行事全体の時間の長さについて（問 6-2）

良かった		長かった		短かった		無回答	
148 名	76.7%	0 名	0%	2 名	1.0%	43 名	22.3%

### (8) 行事の周知方法について

行事の周知方法について、65.3% (126名) が「適当」と回答した。(表 16)

表 16 行事の周知方法について (問 6-3)

適当		多かった		少なかった		無回答	
126名	65.3%	7名	3.6%	17名	8.8%	43名	22.3%

### (9) プログラム (ブース) の数について

プログラムの数について、参加者の 69.4% (134名) が「良かった」と回答した。(表 17)

表 17 プログラム (ブース) の数について (問 6-4)

良かった		多かった		少なかった		無回答	
134名	69.4%	4名	2.1%	12名	6.2%	43名	22.3%

### (10) 各プログラム (ブース) の中での説明の仕方について

各プログラムの中での説明の仕方について、無回答を除くほぼ全員が「良かった」と回答した。(表 18)

表 18 各プログラム (ブース) の中での説明の仕方について (問 6-5)

良かった		良くなかった		無回答	
149名	77.2%	1名	0.5%	43名	22.3%

### (11) 全体の流れ (進行) について

全体の流れ (進行) について、無回答を除く全員が「良かった」と回答した。(表 19)

表 19 全体の流れ (進行) について (問 6-6)

良かった		良くなかった		無回答	
150名	77.7%	0名	0%	43名	22.9%

## 3. 実行委員 (回答者数 : 11名)

### (1) 実行委員の属性

実行委員の所属は、行政が 45.4% (5名)、警察が 18.2% (2名)、婦人会 (交通安全母の会)、交通安全協会、ブース運営団体、その他 (交通指導員) がそれぞれ 9.1% (1名) であった。(表 20)

表 20 実行委員の所属・種別（問 1）

	実行委員	
婦人会 (交通安全母の会)	1名	
	9.1%	
交通安全協会	1名	
	9.1%	
ブース運営団体	1名	
	9.1%	
行政	5名	
	45.4%	
警察	2名	
	18.2%	
その他(交通指導員)	1名	
	9.1%	
総 数	11名	
	100%	

## (2) プログラムの評価について

①自身の地区のプログラムの評価について、実行委員の 54.5%（6名）が「大変良かった」、36.4%（4名）が「良かった」と回答した。（表 21）

表 21 今日の行事は（問 2-1）

大変良かった	6名	54.5%
良かった	4名	36.4%
ふつう	0名	0%
良くなかった	1名	9.1%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

## ②プログラム評価

表 22 スケアードストレイト (問 2-2)

大変良かった	4名	36.4%
良かった	4名	26.4%
ふつう	3名	27.2%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 23 ブースによる展示・体験 (問 2-2)

大変良かった	4名	36.4%
良かった	5名	45.4%
ふつう	2名	18.2%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

## ③参加者数について

表 24 今日の行事は (問 2-3)

想定より多かった	9名	81.8%
想定どおりだった	2名	18.2%
想定より少なかった	0名	0%
無回答	0名	0%

### (3) 本事業で達成できたと思うことについて (複数回答)

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の90.9% (10名) が「交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらう」、81.8% (9名) が「家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう」と回答した。(表 25)

表 25 達成できたと思うこと (問 3: 複数回答)

交通ルールや交通マナーの大切さを理解してもらう	10名	90.9%
参加者同士が顔見知りになり、挨拶や声掛け通じて交通事故防止	2名	18.2%
行事がきっかけとなり、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	3名	27.3%
家庭や地域の中で交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	9名	81.8%
その他	0名	0%

### (4) 交通ボランティア活動の実践の場としての、本事業の評価

①本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や

技術向上の機会となったかについて、実行委員の 81.8% (9 名) が「大変役立った」、「役立った」と回答した。(表 26)

表 26 知識や技術向上の機会となったか (問 4-1)

大変役立った	2 名	18.2%
役立った	7 名	63.6%
ふつう	1 名	9.1%
役立たなかった	1 名	9.1%
全然役立たなかった	0 名	0%
無回答	0 名	0%

②本事業に参加いただいたことによって、有益だったことについて (複数回答) 実行委員の 81.8% (9 名) が「行政や警察、他団体との連携について」、72.7% (8 名) が「交通安全教室実施のための企画立案」と回答した。(表 27)

表 27 有益だったと思うこと (問 4-2: 複数回答)

交通安全に関する知識の習得について	3 名	27.3%
交通安全教育を行う際の指導方法について	1 名	9.1%
交通安全教室実施のための企画立案について	8 名	72.7%
交通安全教室の運営について	4 名	36.4%
交通安全教室で使用する道具等の制作・調達について	3 名	27.3%
行政や警察、他団体との連携について	9 名	81.8%
その他	0 名	0%
無回答	1 名	9.1%

③本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、54.5% (6 名) が「活用していきたい」と回答した。(表 28)

表 28 今後の活用予定について (問 4-3)

活用していきたい	6 名	54.5%
一部活用していきたい	2 名	18.2%
どちらともいえない	3 名	27.3%
活用することは難しい	0 名	0%
無回答	0 名	0%

④本事業への参加を契機として、今後同様 (又は類似) の体制で交通安全教室を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の 54.5% (6 名) が「実施したいし、可能だと思う」と回答した。(表 29)

表 29 継続実施に向けての意欲と可否（問 4-4）

実施したいし、可能だと思う	6名	54.5%
実施したいが、困難だと思う	3名	27.3%
実施したいと思わない	1名	9.1%
どちらともいえない	1名	9.1%
無回答	0名	0%

**（５）本事業以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか。（自由記述）**

- ・ 体験を交えた楽しく学べる講習会の提供
- ・ 専門家による講習会等の実施
- ・ 交通ボランティア向けの講習や機材の貸し出し、購入など
- ・ 他県（地区）との交流会の実施
- ・ 教養の受講は必須であるが、実際に教育に携わることが大切
- ・ 高校生等をボランティア活動に参加してもらうなどの体制づくり

**（６）今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。（自由記述）**

- ・ 交通安全のための活動、事故防止対策の重要性を再認識した
- ・ スケアードストレイトはより危険性を認知する良い機会であるが、対象者を絞ることについてはより慎重に行う必要がある（怖がっている来場者も数名いた）
- ・ 関係機関との連携の必要性
- ・ 車両展示や体験型のブースを設けると多くの来場者が来ることが再認識できた
- ・ 中高校生を対象とした体験コーナーを開設することで、幅広い世代に交通安全の重要性を再認識してもらえたのではと感じた

**（７）本事業に対する意見や提言について。（自由記述）**

- ・ 今後も同様のイベントができれば良いと思う
- ・ 電動アシスト自転車の試乗は子どもには危険が伴うので注意が必要
- ・ 子ども連れの家族は楽しみながら交通安全を学べる良いイベントだと思う
- ・ 毎年実施してもらいたいイベントです
- ・ 交通関係団体だけでなく、消防関連団体の参加があったため、相乗効果があった